

## テモテへの手紙第一 3章 8節から 13節 教会の僕「執事」

2週間前の説教で、パウロによる教会の監督あるいは長老についての議論を見ました。テモテへの手紙第一 3章の 1節から 7節です。わたしは長老を教会の指導者として説明しました。パウロによる教会の長老や牧師についての議論から、わたしたちは、長老あるいは牧師の役割とは教会全体への指導と教えであること、そして、教会には長老が複数いることが望ましいことを知りました。今日の聖書箇所においても、パウロはリーダーシップに関する議論を続けます。その内容は、教会の奉仕者である執事職についてです。パウロはテモテへの手紙第一 3章 8節で、自分が指導している若い牧師テモテに向かって"同じように執事たちも"と続けています。この一文は、パウロが長老の資質について議論した後に見られます。つまり、彼は基本的に、執事と長老とでは、選出されるための要件は類似している、と言っています。パウロはこれらの要件を挙げていますが、執事の場合と長老の場合とでは多くの重複部分があります。実際、長老と執事とでは異なる要件があります。その違いは、それぞれの職務の違いを反映しています。わたしは、2週間前に長老についての説教をした時、長老は完全に完璧なクリスチャンではない、と申し上げました。執事もそのようなクリスチャンではありません。長老も、執事も、クリスチャン生活を忠実に送っている人々であるはずですが。

長老についての説教をした時と同様に、わたしはまず、新約聖書を開いてみたいと思います。そこから執事の意味を探ってみます。執事に関して、新約聖書はあまり多くを書いていません。ですから、わたしたちは、執事とは何か、注意深く結論を導く必要があります。使徒の働きの中に、執事についての最初の記述が見つかります。使徒の働き 6章 1節から 6節を読みましょう。執事が誕生した状況が記されています。1 そのころ、弟子の数が増えるにつれて、ギリシア語を使うユダヤ人たちから、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して苦情が出た。彼らのうちのやもめたちが、毎日の配給においてなおざりにされていたからである。2 そこで、十二人は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばを後回しにして、食卓のことに仕えるのは良くありません。3 そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵に満ちた、評判の良い人たちを七人選びなさい。その人たちにこの務めを任せることにして、4 私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します。」5 この提案を一同はみな喜んで受け入れた。そして彼らは、信仰と聖霊に満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、そしてアンティオキアの改宗者ニコラオを選び、6 この人たちを使徒たちの前に立たせた。使徒たちは祈って、彼らの上に手を置いた。今お読みした聖書箇所には、執事と呼ばれている人物は登場しません。しかし、パウロがテモテへの手紙第一を書く頃までには、この集団は明らかに執事の職務を形成していたようです。

この聖書箇所を読む限り、執事の役割には、教会を一致させるという目的がある。このことがよく理解できます。その当時、子供のいないやもめの面倒を見る社会福祉機構のようなものはありませんでした。ギリシャ人（ESV ではヘレニストと呼称）のやもめには、毎日与えられる食事が無いがしろにされていました。このため、教会の中には不一致があったのです。当時はまだ教会が形成されて間もない時で、長老は 12 使徒でした。12 使徒は教会全体（弟子たち全員）を招集し、執事を選出することを提案しました。教会の統治に関する説教を行った時、わたしは、執事を選出するのは教会の会衆全体である、と指摘しました。エルサレム教会では 7 名の男性を執事に選出しました。しかし、7 という数字そのものにこだわる必要はなさそうです。エルサレム教会にとって必要な執事の数は 7 名だったのです。教会は各々、その教会に必要な人数を自由に選出することができます。わたしたち YIBC は、新教会規則案においてこの原則を貫いています。人数制限については、現在の教会規則でもすでに撤廃しています。エルサレム教会では、執事が選出されて、彼らは祈られました。これは、今日でも執事の按手式として行われています。わたしたちは、執事として選出された人々が聖霊によって召されたこと、そして、教会によって選出されたことを認識します。そして、わたしたちは彼らのために祈るのです。

わたしたちは執事の由来について見てきました。ここで、わたしたちの役に立つと思うので、執事という用語を吟味してみます。また、聖書の中で執事という用語がどのように使われているかを調べてみます。聖書には長老を表す用語が 3 つありました。ところが、執事はディアコノスという用語しかありません。この用語は文字通り、仕える者を意味します。新約聖書には、このディアコノスという

用語が頻繁に出てきます。しかし、ディアコノスが執事の職務を指しているのか、それとも単に、奉仕全般のことを指しているのか、それを見分けることは容易ではありません。この用語は「牧師」と訳されることもあります。コロサイ人への手紙 1 章 7 節では、エパfrasを「あなたがたのためにキリストに忠実に仕える者」と呼んでいます。「... 忠実に仕える者」とは、忠実なディアコノス、あるいは、忠実な執事という表現といえます。ミニスターという用語は、長老よりも執事の役割に当てはまります。歴史的には牧師を示す用語として使われてきたため、今日の教会で長老以外の人にミニスターという用語を使うと混乱を招くことになるでしょう。

使徒の働きの中で執事の働きがどのように用いられたか、また、新約聖書の中で執事と呼ばれている人々の様子がどのようなものかを見れば、わたしたちは、教会における執事の奉仕やミニストリー運営について知ることができます。執事は、やもめのために食糧配給の世話をしていた。もちろん使徒の働きを読めばそのように書かれています。しかし、わたしたちが知りたい事、つまり、執事の職務内容については、聖書はまるで沈黙を貫いているようです。このことは何を意味しているのでしょうか。それはつまり、執事の職務は、教会の教えや霊的な指導やリーダーシップとは直接関係のない、実務対応の管理を任せるのが最善である、ということなのです。使徒の働き 6 章 2 節と 4 節に戻りましょう。教会の使徒や長老は何に集中するべきか。ここに注目して下さい。「2 そこで、十二人は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばを後回しにして、食卓のことに仕えるのは良くありません。... 4 私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します。」12使徒は、長老が専念すべき3つの仕事を挙げました。すなわち、説教、祈り、みことばの奉仕です。みことばの奉仕は、長老が行う説教の仕事と一緒です。人々が集団となると、ましてや、地上の組織では起こり得るはずもない、愛を与え合いながら一致して、キリストの体を作り上げている共同体となると、本当にあれこれと気をつけなければならないことがたくさん出てくるのです。現代の住環境において、わたしたちは教会堂を手入れすることが必要です。日曜学校のプログラムを組むにあたっては、教師のスケジュールを管理したり、教材を注文することが必要です。現在、1人の長老が対応することはできています。しかし、こうした様々な教会実務については、おそらく執事にお任せすることの方がもっと良いでしょう。こうしたミニストリーをすべて見てみると、教会活動は人間が参加することによって成り立っています。使徒の働きに書かれているように、いずれ、人々の間で不一致が生じるようになるのです。信徒はそれぞれ、キリストの体の中で自分の奉仕の場所を見出そうとします。執事は、こうした信徒の方々をミニストリーにおいて一致させる任務に召されているのです。新教会規則案は、現在の教会規則集に基づいて、執事に関して今日ここでお話しした考えを文言として含んでいます。わたしたちは執事をこう定義します。すなわち、執事はわたしたちのミニストリーをリードして、牧会的でない問題に対処する。わたしたちは、執事の中には3年の任期を越えて奉仕している人もいることに気づきました。そこで、わたしたちは新教会規則案に規定を設けました。教会が彼らが必要とし、その役割を承認し続ける限り、彼らが奉仕を続けることができるようにしました。

わたしたちは、執事の役割について、聖書がどのように定義しているかを見てきました。テモテへの手紙第一 3 章に戻って、どんな人が執事になるべきか、それを見てみましょう。テモテへの手紙第一 3 章 8 節はこう始まります。8 同じように執事たちも、品位があり、つまり、執事は尊敬に値する男性（そして後述するように女性）であるべきです。非の打ちどころのない人であることが監督としての土台であるように、人の目から見ても尊敬に値する人であることが、執事としての土台となるのです。そう言った後で、パウロは、肯定的な特徴と否定的な特徴を挙げながら、その意味を明らかにしていきます。彼は、二枚舌ではないと言っています。執事となる人々は正直で信頼できるのです。監督としての要件と同じように、執事となる人々は 大酒飲みでなく、とあります。ただし、ESV によれば、パウロは「ぶどう酒に溺れず」と述べています。繰り返しますが、聖書ではアルコールは決して禁じられていません。しかし、次のことも何度も何度も明言されています。つまり、酔っぱらいは罪です。アルコールをコントロールできない人は教会の指導者になるべきではありません。長老における要件と同様に、パウロは執事における要件として、不正な利を求めずとして、金銭を愛することを戒めています。執事は、その職務の性質上、牧師よりも教会の収入の多くを直接管理しています。この体制は教会にとって健全なことです。新教会規則案では、教会の建物や土地の管理、日曜学校の教材の注文、献金集計の監督に関して、執事が行います。会計係は個別に任命されますが、その奉仕



は執事として行います。つまり、執事はわたしたち教会のお金のほとんどを管理するのです。執事は賢明なお金の使い方を知っているが、金銭欲に支配されていない、信頼できる人が必要なのです。

**9 きよい良心をもって、信仰の奥義を保っている人でなければなりません。**信仰の奥義とは福音の真理のことです。執事は福音の真理について強い確信を持っていなければなりません。しかし、それは単なる学術知識や "模範解答を知っている" ということではあり得ません。執事は、わたしたち全員と同じように、ハッキリとした良心をもって、信仰というものを持ち続けなければなりません。言い換えれば、ただ単に福音を信じていると口にするだけではなくて、真理を行うこと、福音を生きること、なのです。使徒の働きで最初に選ばれた執事の中に、ステファノという人物がいました。ステファノは執事に選ばれた直後、イエスをメシアとして擁護する熱弁をふるいました。そして、彼は、自分のこの信仰のために死刑に処せられた最初のクリスチャンとなりました。この執事はイエス様のことを知っていただけではありませんでした。彼は、イエス様のために死ぬことができるほどにイエス様への信仰を体験的に積み上げていたのです。わたしたち全員、このような献身ができますように。執事は、その信仰をただ言葉によって宣言するのではなく、その信仰を実践することができなければなりません。これが執事としての要件です。10 節は言います。**10 この人たちも、まず審査を受けさせなさい。そして、非難される点がないければ、執事として仕えさせなさい。**

パウロはただ、執事を審査しなさい、と言うだけです。だからといって、長老と同じような審査はしない、とは言っていない。だからパウロは、牧師は若いクリスチャンではなく、キリストに仕えてきた明確な経歴を持つ者であるべきだ、と言っているのです。執事は、長い信仰歴を持つ必要はないようです。しかし、現在、信仰の模範となるような生活を示していなければなりません。先週、牧師についての説教をしました。その時に議論したことと同じことに戻っていきます。つまり、**非難される点がないければ、**ということです。あなたの生活態度は、あなたが表明している信条と一致してないぞ、という非難を浴びせられてはなりません。執事を選出するための審査方法は、教会によって異なることもあり得ます。新教会規則案では、執事の候補者はすべて、長老による審査を経て、最終的に会衆によって承認されます。執事は、神の言葉と神の民を教える能力を含む役割ではありません。そこで、審査で焦点となる事は、まさにこの「非難される点がないこと」なのです。長老の場合、会衆が審査する時間を設けます。しかし、執事については、そこまで行わなくてもよいように思われます。執事として推薦された名前も、もちろん将来の長老として推薦された名前も、ビジネスミーティングの議題として取り上げられます。その理由は、会衆の中に、推薦を受けた人がその職務に奉仕すべきでない理由を知っている人がいる場合、その人が牧師や他の長老や執事に向かって、そのことを個人的な方法で訴えることができるようにするためなのです。会衆は、執事や長老の審査に参加しなければなりません。

この 11 節については、教会間で意見の相違が見られます。わたしは、この件についてあまり説明の時間をかけなかったことを承知しています。しかし、聖書は長老職を男性に限定しています。わたしたちがこのように信じる理由は明らかだと思います。ただし、「聖書が長老職を男性に限定していること」について、皆さんの中で疑問をお持ちの方がいらっしゃるならば、どうぞ、わたしにお知らせください。個別にご説明したいと思います。しかし、執事の職務については、教会も、また牧師であるわたしも、男性信徒の方にも女性信徒の方にも開かれていると信じています。ESV では 11 節にはこう書かれています。**執事の妻たちも同様に、品位があり、人を中傷する者ではなく、自分を制し、すべてに忠実な人でなければなりません。**この聖書訳では、男性執事の妻たち、と訳しているようです。しかし、ギリシャ語では、妻という用語と、女性という用語とは、同じなのです。ESV の脚注にある代替訳では、執事の女性と訳しています。この代替訳の方が良い訳です。この訳は日本の新改訳 2017 でも同じように解釈されています。**すなわち、11 この奉仕に就く女の人も同じように、品位があり、人を中傷する者でなく、自分を制し、すべてに忠実な人でなければなりません。**ここで、執事の女性という語りかけがあるのは以上のとおりですが、長老の女性という語りかけは見当たりません。これは妙です。聖書の他の箇所には、女性が執事職に就いていると思われる箇所があります。**ローマ人への手紙 16 章 1 節は言います。"私たちの姉妹で、ケンクレアにある教会の奉仕者であるフィベを、あなたがたに推薦します。"**この「奉仕者」という用語は、「執事」を意味します。ESV や新改訳は執事とは訳してはいません。英訳によっては執事と訳しているものがあります。確かにフィベ

は、一般的なミニストリー志向の人ではなく、教会で特定の役割を果たしたことで称賛されたようです。

パウロは基本的に、女性は品位ある者であるべきです、と繰り返し語っています。彼が執事としての要件として述べたことと同じです。つまり、ゴシップで他人を誹謗中傷しない人であり、最後に、すべてのことに忠実であることなのです。これは、非難される点がない、という側面を別の形で繰り返し語っているに過ぎません。奉仕やミニストリーに忠実に献身していくことが、執事としての日常生活を特徴づけるべきものなのです。このような特徴は、執事になってから得られるものではありません。執事職に選ばれた人の中にこうした特徴が見出される、ということなのです。12 節において、パウロは長老に対して述べた用語と同じ用語を執事にも述べています。**12 執事は一人の妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。**これは長老における要件と同様に理解すべきものです。一人の女性を愛する男性であることです。今、結婚生活に対する誠実さを疑われるようなことは一切しないこと、なのです。離婚経験がない、という事ではなく、性的欲望やポルノグラフィと闘っている人は選出しません、ということかもしれません。繰り返しますが、長老の場合と同じように、父親としての男性のあり方、ここでは母親としての女性のあり方が、その人の性格を物語りますし、教会の中で他の人々とどのように働いていくのか、を物語っているのです。そして、パウロは 13 節で締めくくります。**13 執事として立派に仕えた人は、良い地歩を占め、また、キリスト・イエスを信じる信仰について、強い確信を持つことができるのです。**ここで言う地歩、あるいは評判とは、教会内での、あるいは、わたしたちの救い主の御前における、忠実な僕としての地歩や評判なのかもしれません。執事に限らず、クリスチャンとしての役割はイエス・キリストに仕えることです。あなたがイエス・キリストに仕えれば仕えるほど、あなたの奉仕に力を与えてくださるお方、イエス・キリストへの信仰が強まるのです。そして、イエス・キリストへの信仰こそが、わたしたちの奉仕すべてにおける土台なのです。

このイエス・キリストへの信仰について最後に述べます。神があなたを長老や執事に召されようとも、あるいは、与えられた賜物によってキリストに忠実に仕える献身的なキリストの体の一部であろうとも、すべてはイエス・キリストへの信仰の上に成り立っています。執事になったからといって、神の恵みにあずかれるわけでも、神の善意にあずかれるわけでもありません。わたしたちの罪はあまりにも悪で、あまりにも深く、あまりにも神を侮辱しています。執事、日曜学校の教師、牧師など、どのような形の奉仕をすることによっても、聖なる完全なる正しい神に対して、罪を償うことはできません。わたしたちは自分が罪人であることを認め、罪から離れ、イエス・キリストがわたしたちの身代わりとなって十字架上で死んで、その罪の罰を贖ってくださったことを受け入れる。このことによって罪を悔い改めなければなりません。イエス・キリストへの信仰こそが、わたしたちの奉仕、わたしたちの善い行いの源なのです。**エペソ人への手紙 2 章 10 節は言います。10 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。神はあなたにどのような奉仕、どのような善い行いを用意されましたか？それは執事になることではないかもしれませんが、何かをすることです。祈りましょう。**

## 1 Timothy 3:8-13 The Servants of the Church - Deacons

Last week we looked at the first 7 verses of 1 Timothy 3, where Paul discussed the overseers or Elders of the church. I described the Elders as the leaders of the Church. He began by discussing the Elders or Pastors of the church, and we saw that their role was overall leadership and teaching and that the expectation is that there is more than one of them. Today Paul's discussion of leadership continues by looking at the other church office of Deacon, who are the Servants of the Church. And so, Paul continues his words to this young pastor, Timothy, whom he is mentoring, by saying in [1 Timothy 3:8](#) "Deacons likewise..." Remember from last week, he has just finished giving the qualifications for Elders. He is basically saying, there are similar requirements for Deacons, and when we look through this list, there is a lot of overlap between the requirements for Elders and Deacons. In fact, the places where the lists are different show the distinctions between the two offices. As I said regarding elders, they are not super Christians and neither are Deacons, they are both supposed to be living the faithful life that all Christians are called to lead.

Just as we did with the terms for Elder, I want to start by walking through the New Testament first to discover what was meant by the term Deacon. The New Testament does not actually say a lot about Deacons, so we need to be careful in drawing conclusions. In the book of Acts, we find the first idea of Deacons. Let's read [Acts 6:1-6](#) to see the beginnings of Deacons, "Now in these days when the disciples were increasing in number, a complaint by the Hellenists arose against the Hebrews because their widows were being neglected in the daily distribution. 2 And the twelve summoned the full number of the disciples and said, "It is not right that we should give up preaching the word of God to serve tables. 3 Therefore, brothers, pick out from among you seven men of good repute, full of the Spirit and of wisdom, whom we will appoint to this duty. 4 But we will devote ourselves to prayer and to the ministry of the word." 5 And what they said pleased the whole gathering, and they chose Stephen, a man full of faith and of the Holy Spirit, and Philip, and Prochorus, and Nicanor, and Timon, and Parmenas, and Nicolaus, a proselyte of Antioch. 6 These they set before the apostles, and they prayed and laid their hands on them." The men we see here are not called Deacons, but it is likely this original group formed the office that by the time Paul writes 1 Timothy was clearly an office of Deacon.

From this passage, we get a good understanding that the role of Deacon is for the purpose of unity in the church. There was disunity in the church because the Greek (what the ESV called Hellenist) widows were being neglected in the food that was given to widows each day to help them out as there were no social welfare structures to take care of those without children to take care of them. This was still early in the church, so the elders were the 12 apostles. They called the entire church together ([the full number of the disciples](#)) and the solution they proposed was to choose Deacons. I pointed out in the sermon on church government that it was the church body itself who chose the Deacons. The Jerusalem church chose 7 men to serve as Deacons, but there does not seem to be a need to stick to only 7. The number is not really significant. It was the number that church needed. Each church is free to choose as many or as few as they need. We stick to this principle in the new Constitution, which was a change we had already made in our current Constitution by removing limitations on the number. These men were chosen and prayed over. This is what happens when we ordain Deacons even today. We simply recognize their calling by the Holy Spirit and choosing by the church and then pray over them.

Now that we have looked at the origin of Deacons, it is useful to examine the word itself and how it is used in Scripture. There were three different words for elders in the Bible, but for Deacon, there is only one word, *diakonos*. The word literally means one who serves. It



comes up often in the New Testament, but its not always easy to see whether it is referring to the office of Deacon or simply any type of service performed by someone. You will see the word translated sometimes as “minister.” [Colossians 1:7](#) calls Epaphras, “[a faithful minister of Christ on your behalf.](#)” “[...Faithful minister](#)” is the phrase faithful diakonos or faithful Deacon. It does seem like the term Minister applies to the role of Deacon more than to the office of Elder, although historically, it has been applied to pastors. Unfortunately, using the term minister would cause confusion if applied to non-elders in the church today.

Looking at how Deacons were used in the book of Acts and the various people who may be referred to as Deacons in the New Testament, we can get a picture of how Deacons can serve in the church and be organized for ministry. On this point the Bible is pretty silent, but of course Acts shows them taking care of food distribution for widows. This is a practical concern, and gives us an idea that the practical matters of the church that are not related to the teaching and spiritual direction and leadership of the church are best left to Deacons to manage. Going back to [Acts 6:2 and 4](#), notice what the Apostles, the Elders of the church said they were supposed to focus on. “[It is not right that we should give up preaching the word of God to serve tables. ... 4 But we will devote ourselves to prayer and to the ministry of the word.](#)” They listed three tasks that were supposed to be the focus of the elders – preaching, prayer, ministry of the Word. Ministry of the Word goes with the preaching task of the Elder. That leaves a whole lot of other stuff that happens in any group of people that needs to be taken care of, especially a group of people called to be unified as the body of Christ and represent a loving body like no other organization on earth can do. In our modern day setting, we have buildings that need taken care of. Our Sunday School program requires management of teacher schedules and materials to be ordered. Now an Elder can do those things, but they are probably better left to Deacons. Elders are responsible to God for the worship that happens when the church gathers, but there are logistical parts to the worship service that are better looked after by others – ushers, greeters, sound board technicians, musician schedules, Proclaim software computer operators, even actually leading the music used to worship God. If you look at all of these ministries, they involve people, and as in the book of Acts, people will have disagreements. It is the Deacons who God has called to the task of unifying all of these people in ministry as each person seeks to find their place of service in the body of Christ. The proposed Constitution will put in writing this very idea for our Deacons that we have begun to do under our current Constitution. We define that Deacons will lead our ministries and take care of issues that are not pastoral in nature. We also realized that some of those Deacons are serving in roles that go on past a three year term of office, so we made provisions in the Constitution for them to continue to serve as long as the church needs them and continues to approve them for those roles.

Now that we have seen how the Bible defines the role of Deacon, let’s go back to 1 Timothy 3 and see who should be a Deacon. [1 Timothy 3:8](#) begins, [Deacons likewise must be dignified.](#) This means that they are to be men (and women as we will see) worthy of respect. Just as [above reproach](#) laid the foundation for the overseers, being a man or woman worthy of respect in the eyes of others sets the foundation for being a Deacon. Then he goes into a list of positive and negative traits about just what this means. He says they are [not double-tongued.](#) They are honest and trustworthy. Just as with the overseer, they are not to be a drunkard, except here Paul says, [not addicted to much wine.](#) Again, alcohol in Scripture is never forbidden, but it is made clear over and over again that drunkenness is a sin and a person who cannot control alcohol should not be considered for church leadership. Again, just like the elder, Paul warns against a love of money when he continues by saying, [not greedy for dishonest gain.](#) Because of the nature of their service, Deacons directly manage

a larger amount of a church's income than the pastors, which is healthy for the church. Between building and grounds and ordering material for Sunday School and those overseeing the actual counting of the offering, not to mention our Treasurer who in the proposed Constitution would serve as a Deacon while still being nominated separately, Deacons manage most of our money. That means you need trustworthy people who know how to wisely use money, but are not controlled by money and greed.

**9 They must hold the mystery of the faith with a clear conscience.** The mystery of the faith is the truth of the gospel. The Deacons must hold strong convictions on the truth of the Gospel. But, it cannot be just a faith of academic knowledge and "knowing the right answers." The Deacons as all of us are to hold the faith, with a clear conscience. In other words, doing the truth, living the Gospel, not simply saying that you believe the gospel. In that first group of Deacons chosen in Acts was a man named Stephen. Right after being chosen as a Deacon we see him become the first Christian put to death for his faith, after giving an impassioned public address defending Jesus as the Messiah. This was a Deacon who not only knew about Jesus, but knew Jesus enough to die for him. May all of us have this same commitment. It is the requirement that a Deacon's faith be lived out, not just declared by their words that leads directly to verse 10, **10 And let them also be tested first; then let them serve as deacons if they prove themselves blameless.**

Just because Paul only says to test the Deacons, does not mean don't test in the same way as Elders. That is why he says Pastors should not be young Christians, but have a clear history of serving Christ. The Deacons do not seem to need to have a long history of faith, but they do have to show a life that currently exemplifies and shows their faith. It comes back to this same word we discussed last week with pastors, ...**blameless**. There should not be people that can bring accusations against them that their lives do not match up with their professed beliefs. The testing process can look different from church to church. Under the new Constitution all nominations for Deacons will go through examination by the Elders and of course final approval by the Congregation. Because Deacon is not a role that includes the ability to teach the Word of God and the people of God, the focus of any examination should be just this idea of blamelessness. For Elders we would involve a public time of examination by the congregation, although it doesn't seem like it is something that has to be done for Deacons. But, the reason we show the names of nominated Deacons and of course future Elders in business meeting agendas is so that if a member knows a reason why a nominated person should not serve, they can bring that issue to me or to the other Elders or the Deacons in a private way. The congregation must be involved in the testing process.

As the passage continues to verse 11, we come to a point of disagreement between churches. I know I didn't spend a lot of time on it, but I hope its clear why we believe that the Bible restricts the office of Elder to men. Please, if it is not clear, come talk to me personally and we can discuss it. However, when it comes to the office of Deacon, we as a church and I as a pastor believe is open to both men and women. Verse 11 in the English Standard Version says, **11 Their wives likewise must be dignified, not slanderers, but sober-minded, faithful in all things.** I know this version translates this in a way that appears to be saying the wives of the male Deacons, but the word in Greek for wife and woman is the same word. A better translation is the alternative translation found in the ESV footnotes, which says women, which is the way the Japanese ShinKaiYukuSeisho2017 interprets it as well. It would be odd to speak to the wives of Deacons and not the wives of Elders. There are other Biblical passages that seem to likely show women holding the office of Deacon. **Romans 16:1** says, "I commend to you our sister Phoebe, a servant of the church at Cenchreae," The word, *servant*, is the word for Deacon. Some English translations will

translate it that way, although the ESV and the ShinKaiYaku do not. It does seem that Phoebe was being commended for her filling a specific role in the church rather than being just a generically ministry minded person.

Notice that Paul is basically repeating that the women should be dignified, the same as he started the Deacon qualifications with, then he says, not slanderers, in other words not tearing down others in gossip, and closes specifically by saying faithful in all things. This is simply repeating in a different way the aspect of blamelessness. Faithful commitment to service and ministry should characterize the life of a Deacon. It is not something gained after becoming a Deacon, but recognized as already existing in the person chosen for that office. Paul then continues in verse 12 with the same phrase to the men who are Deacons as he gave to the elders. **12 Let deacons each be the husband of one wife, managing their children and their own households well.** This is the same understanding as the elder – to be a one woman kind of man. To be currently free from anything in your life that would make people doubt your faithfulness to your marriage. It does not necessarily mean never divorced but could likely be saying not to choose someone who struggles with lust and pornography. Again, as with the elders, how a man is as a father, and here it would apply to women as mothers, says a lot about their character and how they will work with others in the church. Then, Paul closes with verse 13, **13 For those who serve well as deacons gain a good standing for themselves and also great confidence in the faith that is in Christ Jesus.** This standing or reputation could be in the church or their standing before their Savior as a faithful servant of Jesus Christ. The more you serve Jesus Christ, which is the primary role of a Deacon, but also all Christians, the stronger your faith grows in the one who empowers your service, Jesus Christ. And it is faith in Jesus Christ that is the foundation of all of our service.

Let me close on that note. Whether God calls you to be an Elder or a Deacon, or one of the many dedicated members of the Body of Christ who faithfully serves Christ with the gifts you are given, it is all built upon faith in Jesus Christ. You cannot work your way into God's grace or into his good will, even by being a Deacon. Our sin is too bad and too deep and too much of an offense against God for us to ever atone for it to a holy and perfectly righteous God by doing any form of service, including serving as a Deacon, or Sunday School Teacher...or pastor. We must acknowledge that we are a sinner and repent of our sin by turning away from it and accepting that Jesus Christ paid the punishment for that sin by dying on the cross in our place. It is that faith in Jesus Christ that our service, our good works, then flow from. **As Ephesians 2:10 says, For we are his workmanship, created in Christ Jesus for good works, which God prepared beforehand, that we should walk in them.** What service, what good works did God prepare for you to do? It may not be to be a Deacon, but it is to do something. Let's pray.